

令和7年度 学校評価報告書

学校番号(中17) 長崎市立(福田中)学校

1 教育目標

学校教育目標 心豊かでたくましく、自他を尊び、地域・社会に貢献できる生徒の育成めざす生徒像
 自重：自分を大切に 友情：仲間を大切に 練磨：磨き高め合う生徒

2 学校経営方針

(1) 第4次長崎市教育振興基本計画のもと、学校教育目標、めざす生徒像、学校像、職員像を実現すべく、生徒の成長を実感できる教育実践を推進する。
 (2) 生徒理解を基盤とした、生徒を中心に据えた「生徒第一主義の教育」に徹する。
 (3) 全職員の人格・能力・知恵・創意を生かし、より良い人間関係の中で職務を遂行する組織体として、信頼される学校づくりに努める。

3 重点目標

G1 確かな学力の定着学ぶ楽しさを「自ら学ぶ力」につなげ、目標を立てて学習に取り組む生徒の育成
 G2 豊かな人間性の涵養リーダーシップ・フォロワーシップを発揮し、より良い学校・学年・学級づくりに取り組む生徒の育成
 G3 健やかな体、自立への支援やるべきことに、我慢強く、最後まで一生懸命に取り組む生徒の育成
 G4 自分の命や大切な人の命を大切にする安全教育の推進

4 自己評価

領域	項 目	質 問 内 容	アンケート結果			分析及び改善策
			(肯定的割合・%)			
			児 童 生 徒	保護者	教職員	
学校経営	教 育 目 標	教育目標を達成している	99	94	93	教育目標、学校の雰囲気は肯定的な割合が高いが、職員の評価が減少している。業務の改善についてはc 4 t hやゼロトラPC等の活用等負担感の軽減を図っていきたい。
	学 校 の 雰 囲 気	明るく楽しい雰囲気である	99	97	86	
	組 織 運 営	校務分掌は責任体制が明確で、適切に機能している			36	
	業 務 の 改 善	校務の縮減・効率化等、業務の改善を推進している			21	
心の教育	生活・生徒指導	ルールやマナーを身に付けている	96	90	100	ルールやマナーは高い評価となっている。人権・平和教育、特別支援教育などの取り組みについて、7月に実施した第1回目と比較して肯定的割合の増加した結果が出ている。生徒指導面で職員の評価が少し評価が下がっているが、家庭との連携や周知を行い、心の教育のより一層の充実に向け、今後も教員から生徒への寄り添った言動をしていきたい。
		挨拶をよくしている	96	94	71	
		「あ・は・は運動」を知っている(小学校のみ)				
		教職員は悩みや相談に親身に対応している	95	91	86	
	いじめ防止対策	学校はいじめ防止のための対策をとっている	97	89	86	
	人 権 教 育	生命や人権を尊重しようとする心が育っている	98	93	93	
	平 和 教 育	平和の大切さを感じ、その思いを発信しようとしている	98	85	100	
	特 別 支 援 教 育	学校は教育的ニーズに応じた教育を行っている	92	92	93	
	無 言 清 掃	無言で清掃に取り組んでいる。	97		100	
確かな学力	特 色 あ る 学 校 づ く り	伝統や校風、地域の実態に即した教育を行っている	98	96	86	わかりやすい授業の評価は全体的に高い評価となっていて授業改善の成果が伝わっている。今後もI C T機器等を活用して「わかる喜び」を味わわせる指導を行っていく。家庭学習の習慣化が課題である。キュビナを効果的に活用し、家庭学習を習慣付けていきたい。防災教育を含めた地域連携は成果をあげることができた。
	学 習 指 導 ・ 教 育 課 程	わかりやすい授業を行っている	97	88	93	
		家庭学習の習慣が身に付いている	83	67	57	
	キャリア教育	将来の自立に向けて適切に指導している	96	80	86	
		長崎のまちや自分の住んでいる地域が好きである	98			

健やかな体	保 健 ・ 衛 生	衛生管理に努め、健康に関する教育を行っている	99	92	100	保健・衛生や食育等7月と比較して増加した評価結果が出た。早寝・早起き・朝ごはん等基本的な生活習慣については通信や学年・学級育友会等での啓発により家庭と連携して取り組んでいく。
	体 力 向 上	早寝・早起き・朝ごはん(基本的な生活習慣)が身に付いている	87	77	86	
		体力向上に努めている	89	87	93	
	食 育	食に関する教育活動を行っている	92	92	93	
信頼される学校	安 全 管 理	児童生徒の安全に気を配っている	99	95	100	全ての項目において、ほぼ良好な評価である。今後も校長ブログやHP等のより一層の充実を図った広報活動を通して信頼される学校づくりの充実に向けていく。研修の充実については、充実した防災教育に取り組むことができたが、2学期は取り組みが多く負担を感じた職員も多かった。
	情 報 提 供	学校の状況は通信やHP等で知ることができる	94	97	100	
	P T A ・ 地 域 と の 連 携	学校はPTAや地域との連携がとれている	97	96	93	
	職 員 資 質 向 上	研修が充実し、資質が向上している			50	
	学 校 満 足 度	福田中学校でよかったと思う。	97	97		
教育環境	環 境 整 備	教育環境が充実し、整備されている	93	91	92	環境整備や職場環境職員の評価が減少している。今後も教職員の服務規律及び安全衛生に努めるとともに働きやすい、働きたい職場づくりに取り組んでいきたい。
	職 場 環 境	学校は働きやすい職場づくりに積極的に取り組んでいる			57	

5 自己評価のまとめ(成果・課題・対策等)

○教育目標、学校の雰囲気は肯定的な割合が高く概ね良好な結果となっている。業務の改善が課題であり行事や業務内容について再度見直しC4 t hやゼロトラPC等の活用し、職員の負担感の軽減を図る。
○ルールやマナーは高い評価となっている。人権・平和教育、特別支援教育などの取り組みについて、7月に実施した第1回目と比較して肯定的割合の増加した結果が出ている。生徒指導面で職員が少し評価が下がっているが、家庭との連携や周知を行い、心の教育のより一層の充実に向け、今後も教員から生徒への寄り添った言動をしていく。
○わかりやすい授業の評価は全体的に高い評価となっていて授業改善の成果が伝わっている。今後もI C T機器等を活用して「わかる喜び」を味わわせる指導を行っていく。ただ、家庭学習の習慣化が課題である。キュビナを効果的に活用し、家庭学習を習慣付けていく。
○防災教育を含めた地域連携は成果をあげることができた。教職員の服務規律及び安全衛生に努めるとともに働きやすい、働きたい職場づくりに取り組んでいく。

6 学校関係者評価

○学校評価の職員の働き方改革の評価が下がっている。保護者の要求が多く負担をかけているのではないかと先生方の余裕がなくなっている心配。保護者も働き方改革の捉え方を考えたくてはいけないと思う。
○生徒は地域でのあいさつもよく、地域の行事やボランティア活動など触れ合う中で地域も元気をもらっている。ボランティア活動は地域としては今まで通り取り組んでほしい。今は学校と地域がつながっているいろんな話ができてコミュニケーションがとれている。

7 対策等の見直し(学校関係者評価を受けて)

○学期は防災教育の取り組みを含め多くの行事が重なりどうしても先生方の負担感が大きくなってしまった。行事以外の通常の業務量も多く、また授業改善により各教科の質が高くなり、I C T機器の利用も含め授業の準備にかかる時間も多くなった。行事や業務改善などさらなる精選やICT機器やゼロトラPC・勤怠システムなどを活用しながら職員の負担軽減に努めたい。働き方改革については、教職員が心身ともに健康を保つことができる環境を整え、生徒たちに真に必要な教育活動を、持続的に行うことができるよう、さらなる対策が必要である。部活動の地域展開など職員の負担軽減のため、職員と熟議を重ねたり、地域・保護者の方々の理解と協力を得たりしながら、引き続き、「働きやすく、働き甲斐のある」職場環境の整備を進めていく。
○ボランティア活動については生徒が地域に出向いての活動は行わないが、より地域に貢献できるような取組とし、探究的な学びとして平和活動の充実を図るよう改善していく。

※「4 自己評価」の「項目」欄には、領域毎に空欄を設定している。ここには、重点目標に即し、学校独自の「評価項目」並びに「質問内容」を追加することができる。

＜参考例＞ 読書活動、豊かな体験活動、部活動 等

※「4 自己評価」のアンケートは、4段階で回答するようになっているが、そのうち上位2段階を肯定的回答ととらえ、その割合(整数値のみ)を集計する。